



平成 25 年 11 月 15 日 第 3 巻(第 13 号)

発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F  
災害支援チーム TEL (03)3351-5038  
FAX (03)5366-1058  
mail:dsstsw@jaswhs.or.jp

\*\*\*\*\*  
\*\*\* TOPICS \*\*\*  
\*\*\*\*\*

1. 11月10日 山形市霞城公民館での復興住宅事前登録説明会に

山形県協会のMSW5名が同席参加してくださいました。

2. 11月15日、16日 東京芸術劇場での復興住宅事前登録説明会に

笹岡統括と東京近在のMSW6名が同席参加予定となっています。

3.「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン I」

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン II」

好評発行中です。活動継続の為に寄付になっています。皆さま、ぜひご購入のうえ  
ご覧ください！！

※詳細は、“3. 災害支援チームからのお知らせ”をご参照ください。



\*\*\* 目次 \*\*\*

1. 協力員の感想～1か月の活動を通して～
2. 協力員として参加して
3. 石巻での活動の様子（概要）
4. 石巻での活動の様子（FaceBook から引用）
5. 災害支援チームからのお知らせ
6. 事務所より

\*\*\* 1. 協力員の感想～1か月の活動を通して～ \*\*\*

活動期間:2013年9月1日～9月30日

高橋 史子(東京都介護老人保健施設 太郎)

**感想:**

現地での活動を通し強く感じたのが、“組織(施設)に所属しないSWの弱さ”です。今まではクライアントが求める何らかの資源の中にSWとして私は存在していましたが、現地ではSWのみで勝負することになります。SWがどんなことをしてくれる人か協会の名前を聞いただけではわかっておられない人たちがクライアントであり、SWを必要と感じていないところに、どう存在し介入していくか…関係性を構築するのか…を考える日々であり、弱さを痛感しました。その中で、目の前のクライアントの何か力になりたい…という想いで行動させていただくしかないと考え、活動させていただきました。初めの2～3日はクライアントが話される地名や資源もチンプンカンプンでしたが、面接中は必死に耳を傾け、終了後にさらに必死に調べることを繰り返したところ、大分わかることも増えてきました。

1ヶ月間の中で、施設(組織)に属さないSWの弱さだけではなく、自分自身の横とつながる力、営業力等の脆弱さを痛感するとともに、もう一方で関わりを通し、ケースを通し、クライアントを通し、“つながる力”があるということを実感する経験にもなりました。クライアントとの関わりの中で、『この人にとって必要なことは』を考え、クライアントに必要だと感じたとき、“クライアントが原動力”になって、SWを突き動かすのだと思います。

とても良い経験となりました。このような機会を与えていただきありがとうございました。

**活動を検討している皆さんへ一言:**

興味があるけど…と躊躇されておられる方！是非、一度参加してみてください。

私もその一人でした。活動に参加させていただき、実際の目で見て、肌で感じ、いろいろなこ

とを考える機会になりました。

## \*\*\* 2. 協力員として参加して \*\*\*

活動期間:2013年9月26日~9月28日

中村 悠子(大阪府大阪府済生会吹田病院)

### 感想:

震災から2年半後にして初めての参加でしたが、地域のイベントが続いたこともあり、住民のみならず活動の中で出会う関係者との関わりからも学びの多い3日間でした。これまでは自分が現地で役に立つのかと躊躇していましたが、現地スタッフの方々のサポートがあり住民のみならずと交流できて、まず現地の様子を見聞きし肌で感じる事ができたことは第一歩になりました。被災地は整備されつつあり復興は進んでいるようにも見えましたが、時間が経つにつれて地域によって差が出てきていることや、被災者(被災世帯)それぞれでも経済力によって住まい等に差が出てきているということを知り、生活上の問題は尽きないため継続的に支援していくことの必要性を感じました。短期間で単発的な活動になりましたが、現地スタッフのみならずのサポートが心強く、このように単発的にでも活動できるのは現地スタッフのみならずが継続して関わっておられるからこそだと思います。チャンスがあればまた活動に参加したいと思いますが、遠く離れていても被災地域や活動に関心を持ち続けたいと思います。ありがとうございました。

### 活動を検討している皆さんへ一言:

参加するまでは自分に何が出来るのか不安もありましたが、現地スタッフのみならずがサポートしてくださいませ。

地域のイベントなどがあるかもしれませんので、出発直前には活動スケジュールの確認をして準備していくといいと思います。

活動期間:2013年10月7日~10月9日

岩崎 和也(兵庫県 神戸赤十字病院)

### 感想:

はじめて協力員として参加させて頂きました。短期間で何が出来るのか?参加する意味ってあるのか?これが本音でした。ただ今回参加させて頂き、今までバトンを繋いでこられた全国のソーシャルワーカーの皆さんの努力と、これからも途切れることなく繋いでいく必要性を感じました。

震災から2年半が過ぎ石巻駅周辺の町並みは、少しずつ復興が進んでいるものの、まだまだその爪痕は激しく残っている地域もありました。また震災に遭われた方の気持ちは、先が見えない不安が深く残っているように感じました。9月から始まった復興公営住宅の申し込みを行うにあたり、仮設住宅の集会所で役所の職員に同席し手続きをお手伝いしました。その中で今後の生活に対する不安や経済的不安など様々な問題が明らかになってきました。ソーシャルワーカーだからこそキャッチできること、その問題を現地の関係機関に繋いでいくこと、また関わり続ける事の重要性を感じました。

現地職員の久保木さん、富永さん、畑中さんの熱き想いと一つ一つのケースに丁寧に向き合われている姿勢に心打たれました。この熱い気持ちを今後も伝え、途切れることのないバトンを繋ぎ続けることの使命を感じました。

**活動を検討している皆さんへ一言：**

現地に行けば、何かを感じることが出来るはずです。

活動期間：2013年10月21日～10月23日

石井 悠也(千葉県 亀田総合病院)

**感想：**

今回、初めて被災地に行き、活動した。

活動内容は、各仮設住宅の集会場等で行われている復興公営住宅の申込みの説明会に来る高齢者や、障がい者の方の申込み席に同席して、その場で問題点がありそうであれば仮設住宅にいるエリア主任(石巻社協)と情報共有し、行政や福祉の相談窓口につながっているかを確認した。その中で、問題のありそうな家庭に、今後日本医療社会福祉協会が関わっていくのか、石巻社会福祉協議会が関わっていくのか、他の支援団体が関わるのかを協議することもあった。

私自身のSW経験はまだ1年6ヶ月程であるため、行くまでは、私に何が出来るのかがわからず、大きな不安を抱えていた。特に、10/19(土)に協会主催の災害支援の研修会に行った際、講演した先生方より、「自分の出来ることを明確にして来て欲しい」とお話があった為、本当に不安だった。

しかし、住民の方々と話しをする中で、困っている事は、普段関わっている患者さまとあまり変わらないことを実感した。例えば、介護のことや、障がいのある方を看ている親が、自分の亡くなった後、その子をどうするか等である。根底にある問題は、震災前から抱えている問題であり、そこにSWとして話しを聴くことができたのではないかと思う。

震災時の強烈な思い出を話される方がほぼ全員であり、普通に生活している上では想像し得ない程の大きなストレスにさらされていたこと、また、現在も、仮設住宅という、特異な環境で暮らしているため、その大きなストレスは、現在も続いているように感じた。

**活動を検討している皆さんへ一言：**

今も被災者の方々は、復興の目処が立たない中でも前を向いて日々生活していると感じました。その中でSWとして出来ることが沢山あると感じました。病院のSWである以上、時間に余裕はないと思いますが、時間を作って参加して頂ければと思います。

**\*\*\* 3. 石巻での活動の様子 (概要) \*\*\***

\*\*\* 10/21 久保木 美由紀 (現地担当)

ケース対応：事前登録支援(万石ささえあい拠点センター)、仮設ケース支援

\*\*\* 10/22 久保木 美由紀 (現地担当)

ケース対応: 事前登録会支援(南境第4団地)、仮設ケース支援、河北保健福祉課へ今後の協力体制及びMSW支援内容の説明に伺い、今後のケース対応について協力体制を構築。

\*\*\* 10/23 久保木 美由紀 (現地担当)

ケース対応: 事前登録支援(南境7団地西集会所、本庁)、引きこもりの子を持つ親の会(引きこもりの子を持つ親の会: 参加者1名(初参加)。保健師からの紹介でこの会に参加される。家族内で多くの課題を抱えながら家族を支えてこられたことを語られた。引きこもりの子への対応について苦慮されている様子。本人の対応を支持し、傾聴する。)、仮設ケース対応

\*\*\* 10/24 久保木 美由紀 (現地担当)

ケース対応: 事前登録支援(南境第7団地仮設集会所、万石ささえあい拠点センター)石巻仮設支援連絡会へ参加(テーマは「地域の担い手にどのように引き継いでいくか」についてグループディスカッションを行った。意見としては地域の団体に無理をさせない。どこまでできるか、団体の能力を知った上で、考えていくことが大切。今後の地域づくりの担い手として「子育て世代」がある。活動へ参加してもらうのはどうか。みんな潜在的に「担い手」になりうる可能性がある。小さなきっかけを作っていくことが大切。などが出た。どのように引き継いでいくか、また引き継ぐのかどうか検討課題である。)

\*\*\* 10/25 久保木 美由紀 (現地担当)

ケース対応: 復興住宅事前登録会同席、社会福祉協議会との打ち合わせ(事前登録支援の連携と情報共有について。SWとの連携を図るため事前登録支援のSWの詳細を事例紹介としてエリア主任会議(11/6)で伝える。情報共有はフォーマットをSWが作成し、登録支援に関わる情報を記入し共有する。)

\*\*\* 10/26 久保木 美由紀 (現地担当)

ケース対応: 1期クライアントの自宅訪問。聞き取り等行った。

\*\*\* 10/28 久保木 美由紀 (現地担当)

RCIのキックオフ参加(オブザーバー: 笹岡): 住民主体、地域にどう渡していく為に下半期に向けて各チームの月毎の目標を明確にしていく。SWとの協働の「男の遊ぼう会」は参加者、新規メンバー予定者が多様な課題を抱えており、来年度もSWが協会が関わっていくことを確認。

\*\*\* 10/29 久保木 美由紀 (現地担当)

フィールドワーク(石巻市内):半島部、市内を周る。津波により流されてしまったその土地で再び生活の再スタートをされた方々の想いを馳せる。その背景を知ることが支援活動に生きてくると思った。

ケース対応:仮設ケースについての自宅訪問及び電話確認。聞き取り等行った。

\*\*\* 10/30 久保木 美由紀 (現地担当)

事前登録会支援(渡波第2団地集会所)

ケース対応:1期、仮設ケース等訪問し行政手続き動向支援、不安な気持ちに対する傾聴にとめる。

\*\*\* 11/1 久保木 美由紀 (現地担当)

復興公営住宅事前登録会:仙台会場同席(仙台会場では7件、事前登録会に来所。そのうち1件がSW介入となった。両親が仮設旧宅に入居されており、息子が代行で手続きに来られた。父親が最近、動かなくなると介護保険について知りたいとの事。情報提供する。何事に対してもやる気がなくなっている様子。今後、本人へ直接訪問できることも伝える。息子より一度、両親へ連絡を取り、今後どのような支援をするかは検討する。)。2期、仮設ケース訪問フォロー。

\*\*\* 11/2 久保木 美由紀 (現地担当)

復興公営住宅事前登録会参加。

\*\*\* 11/3 久保木 美由紀 (現地担当)

復興公営住宅事前登録会参加:5件のケース相談がある。

\*\*\* 11/5 久保木 美由紀 (現地担当)

ケース対応:復興公営住宅支援(開成ささえあい拠点センター)(抽選で2年後に住む場所が決まるということで、小学校に上がる子供を持つ親が通学先について悩んでいた。決まってはきているが、未だ不確定な部分も多い被災地の将来の生活について、少しでも一緒に思いを巡らせることができた。)、仮設ケースカンファレンス、仮設ケース相談)、市内フィールドワーク(半島部、市街地を周り、建物が復興した石巻市内とは違い、道路と川の境目が無く、瓦礫や、空家があり、津波の被害が未だに残っていることを目で見えて感じる事が出来た。天候もよく、本当にきれいな自然の風景があるのに、視界の片隅には必ず震災の傷跡が入り、そのギャップの大きさに言葉を失った。午前中の説明会で「ノイローゼになりそう」とおっしゃっていた方がいたが、石巻の自然のもとで生活してきた人が、その生活や空気や景色を失い、仮設の狭い暮らしに適応を余儀なくされていることを思うと、午

前中仮設で聴いていただけの時よりも、より共感する方向に心が動いた。妻を津波で亡くされた70代の男性の「身体は健康だけど、(心は)健康じゃないんだよ」という言葉とその表情が心に残った。

\*\*\* 11/6 久保木 美由紀 (現地担当)

ケース対応:復興公営住宅支援(開成ささえあい拠点センター)、エリア主任会議出席。(復興公営住宅事前登録支援の連携強化を目的に協会活動を紹介(職員体制、相談窓口、SWの視点等)。今後も定期的な参加の提案あり。)

\*\*\* 11/7 久保木 美由紀 (現地担当)

復興公営住宅支援(開成ささえあい拠点センター、本庁)、みなし仮設ケース訪問、月例報告(事前登録支援件数が予測を下回った為、関係機関で検討し。未登録の方を訪問することとなり、協会に協力依頼。引き続き協力要請あり。仮設住宅等で、多問題を抱える方多くMSWの協力が必要と。月例報告後1件相談あり。ソーシャルワークの必要性を感じる。)

\*\*\* 11/8 久保木 美由紀 (現地担当)

復興公営住宅支援(開成ささえあい拠点センター)、Ⅱ期ケース訪問、仮設ケース訪問(開成ささえあい拠点センターより復興住宅への登録が未だなされていない自宅へ同行訪問する。事前登録していない理由としては住宅の場所を決めかねている、自宅を立て直すか、民間のアパートを借りるか、等と悩んでいるとの事であった。手続きを行う事に支援が必要な方はほとんどいなかった。)

\*\*\* 11/9 久保木 美由紀 (現地担当)

復興公営住宅支援(開成ささえあい拠点センター)、Ⅱ期ケース訪問、仮設ケース訪問

\*\*\* 11/11 久保木 美由紀 (現地担当)

復興公営住宅事前登録会(大橋ささえあい拠点センター)、(事前登録支援(大橋):事前登録件数 27件、訪問件数 38件。SW介入ケース7件(障害者手帳、介護保険等の説明、代筆。主に高齢の方に分かりやすく説明。))仮設、2期ケース訪問

\*\*\* 11/12 久保木 美由紀 (現地担当)

復興公営住宅事前登録会(大橋ささえあい拠点センター)(事前登録件数 15件、訪問件数 64件。SW介入ケース6件(身障手帳再交付の説明、代筆等)。先月SW介入された方が社協訪問支援員の同行で手続きに来られ登録完了となる。)、仮設、みなし仮設ケース訪問

\*\*\* 11/13 久保木 美由紀 (現地担当)

復興公営住宅事前登録会(大橋ささえあい拠点センター)(事前登録件数 19件、訪問件数 24件。SW介入ケース0件。震災による家族構成変更が復興住宅への申込みの際の懸念事項となっている相談があり、震災の影響の大きさ、深さが見える。)、仮設、みなし仮設ケース訪問

\*\*\* 11/14 久保木 美由紀 (現地担当)

復興公営住宅事前登録会(大橋ささえあい拠点センター、開成仮設団地訪問)(事前登録件数 19件、訪問件数 24件。SW介入ケース0件。震災による家族構成変更が復興住宅への申込みの際の懸念事項となっている相談があり、震災の影響の大きさ、深さが見える。)、仮設ケース訪問・電話

仮設支援連絡会:「こんな復興住宅は嫌だ!」をテーマにグループワークをおこなった。買い物等日常生活の利便性、コミュニティリーダー、家族構成等、様々な意見がでた。当初は復興住宅内だけの意見であったが、次第にもともとある地域住民との関係にも意見がおよび、もともとあるコミュニティとどのように関係をつくっていくかも課題ではないか、との意見もでた。復興住宅への転居が進むと新しいコミュニティの形成だけでなく、仮設住宅に残された住民の自治も変わってくる。これから迎えるであろう大きな変化に対して支援者はどのような活動ができるのか、試行錯誤になると思うが、今回の連絡会を通して各団体が一緒になって考えていける場があることはとても心強いと思った。

\*\*\* 11/15 久保木 美由紀 (現地担当)

復興公営住宅事前登録会(大橋ささえあい拠点センター)(事前登録件数 16件。今週は同じ方が何度も登録会場に足を運ぶ姿がみられた。震災により家族状況が変化したことが、復興住宅入居に際して大きな影響を与えていることが垣間見え、高齢の方は自身が入居する時には自分はいないから申し込まないと話される方も少なくなかった。自宅再建か復興住宅かで迷われている方もおり、要因として自身の土地の今後(自宅再建しても良いかどうか市からの判断が下りていない状況)が決まっていけないのに、生活再建の場を決めるのは酷であるとの話も出ていた。こういう状況の中でSWとしてどのような支援が考えられるのか。また、SWの役割、機能を他職種(医療職、専門職でない)へどう伝え、理解してもらい、SWを活用してもらえるのが課題だと感じた。)、仮設ケース訪問・電話

## \*\*\* 4.活動の様子 (FaceBook から引用) \*\*\*

\*\*\* 11/4 畑中良子 (現地担当)

今日、NHK ハートネット TV で子どもの居場所について取り上げられていた。被災後、仮設暮らしとなって生活空間が狭くなっているのはどの家庭でも起こっている事。そんな中、

子どもたちが落ち着いて勉強できる場所の確保が必要とされている。勉強できる場所だけではなく、ゆっくりと過ごせる場所がないんだと思う。

\*\*\* 11/5 畑中良子（現地担当）

今日は何の日かご存知だろうか？

そう、「津波防災の日」これは中部から九州にかけて大きな津波被害を受けた1854年の安政南海地震が発生した日。津波防災の日は、2011年6月に成立した津波対策推進法で制定された。

しかし、本日、県内でも今日に防災訓練をしている自治体はあまり聞かない。防災行事が定着しているのは、1978年の宮城県沖地震が発生した6月12日の「県民防災の日」の前後。なかなか認知度が上がっていない。しかし、今日は津波防災の日、なので、今一度、備蓄品や避難ルート、集合場所を身近な人と確認をしよう。日々の意識が有事に役立つ。これは今回の震災に学んだことの一つ。みなさん、どうぞ、確認を

\*\*\* 11/6 畑中良子（現地担当）

今、復興に向けてまちづくりが始まっている。住宅も復興公営住宅への事前申し込みが進んでいる。市立病院も平成28年に石巻駅周辺の建設が予定されている。JRとも「新蛇田駅」を建設予定。まちの様子が少しずつ変化している。学校や会社、病院や商業施設が何処にできるかで人の流れが変わる。復興住宅の窓口でもどんな街並みになるのか、質問が出ている。住む場所もその周りに何ができるかも住民にとっては重要。石巻の消防署が再編される。住民の安心、安全を守るために。より住みやすいまちになるために。

\*\*\* 11/7 畑中良子（現地担当）

今日は気仙沼市の話になるが、あの大型船の解体が終了した。

9月9日より解体作業が始まり、10月28日で終了したとの事。

解体が発表されてからは見学に来る人が増えたという報道もあったが、あの大きなシンボルがなくなったのちも、その地で暮らす人々に心を寄せてもらいたい。

\*\*\* 11/8 畑中良子（現地担当）

昨日、JR石巻駅周辺に地域包括ケア、防災の機能を備えた二つの拠点施設を整備する再開発計画をまとめた市は7日、市役所で住民説明会を開いた。約110人の住民が参加したとの事。石巻駅周辺には市立病院も開設する予定。どちらも2016年度の開始を目指している。2016年には石巻の風景が今とすごく変わっているんだろう。

「防災に強いまちづくり」と言われているがハード面とソフト面、どちらも強化できるまち作りを目指したい。

\*\*\* 11/9 畑中良子（現地担当）

石巻にはいくつかの離島がある。そのうちの一つに網地島（あじしま）がある。その島のお話を紹介したい。

人口 500 人弱。そんな島に栃木県の医療法人が 1999 年に網小医院を開院した。閉校となった小学校を改装して始めたとの事。

栃木県の医療法人の理事長と島民との交流がきっかけでこの医院ができた。

「網小医院は、医療法人陽気会「とちの木病院」（栃木県栃木市）を運営する早乙女勇理事長が1999年9月に開業した。不登校だった次男が、同病院の保養所がある島の中学に通ったことで、無事に高校進学を果たした。「島に恩返しをしたい」と、廃校の網長小校舎を病院にし、「網小医院」と命名した。」と、以前の新聞で紹介されていた。

島に医療が常時ある意味。網地島の話は地元の方に伺った。石巻に居ながらまだまだ知らないことも多いし、行っていないところもある。

もっと石巻を知りたいと思う。

\*\*\* 11/9 畑中良子（現地担当）

今月は児童虐待防止推進月間。

今日は石巻市要保護児童対策地域協議会主催で児童虐待防止講演会を開いた。関係機関はもちろん、一般市民の方も参加をしてくださり、約 200 名の方が集まった。

「児童虐待の現状と対応」というテーマで、みやぎ心のケアセンター 副センター長 山崎 剛先生。「虐待」という言葉には抵抗がある方が多いかもしれない。しかし、どの地域でも起こり得る事。決して特別な事ではない。

病気でも同じ事だが、発生してからの対応ではなく、どう防ぐか。

オレンジリングで知られている認知症サポーターのように虐待防止サポーターのようなものが地域に普及するような事ができれば良いな、と関係機関のスタッフと話をしていた。みんなで見守りができる地域づくり。

\*\*\* 11/13 畑中良子（現地担当）

石巻は平成17年の合併後、555 km<sup>2</sup>と広大となった。

石巻市によると、市全体の医療機関は2010年10月に117あったが、ことし4月現在で12に、病床数は1973床から437床減少した。そして、この度石巻市は来年度、東日本大震災の影響で医療体制の脆弱（ぜいじゃく）さに拍車が掛かる地域への医療施設の誘致を促進するため、医療機関の進出経費を助成する補助金制度を創設する方針を決めた。ドクターヘリや民間救急など病院が遠方にある地域にも医療が届くように整備されている。

しかし、近くに病院がある安心感は大きいだろう。どんな医療体制ができるのだろうか。

\*\*\* 11/14 畑中良子（現地担当）

今週に入り、急に冷え込みが進んだ。北海道や東北の各地域でも降雪が記録されている。石巻でも最低気温が0℃の日もある。どんどん寒さはきびしくなるだろう。

そんな今週初めの日曜日、借上げ型の復興公営住宅の抽選会があった。

10月末で申し込みは締め切られ、11月10日に抽選会。その抽選会で落選した人で復興公営住宅への入居を希望される方は現在行われている事前申し込みを11月29日までに行わないといけない。残り、2週間。

希望される方の手続きがスムーズに進むように、それに伴う不安を傾聴し、支援を行っていく。これから来られる協力員さんはどうぞ防寒着をお忘れなく。

\*\*\* 11/15 畑中良子（現地担当）

石巻でまた新しい取り組みが紹介されている。

元気な高齢者のパワーを、地域住民の結び付きを強めるマッチング事業に生かそうという取り組み。事業は、東日本大震災被災地の高齢者の精神的な自立支援、多様な交流機会の構築を目的に提案。厚生労働省の2013年度老人保健健康増進等事業に採択され、国庫補助を受けて進めている。

実施主体は介護サービス会社「ばんぶきん」（石巻市丸井戸、渡辺俊雄社長）で、来年3月までを実証モデル事業期間に設定。—と、紹介されている。

活動の内容は、震災で孤立、生活不活発病に陥りがちな高齢者の話し相手や、電球交換の手助け、外出付き添いなど。高齢者施設を慰問したり、知識や特技を生かしてレクリエーション活動に参加したりする機会も想定しているようだ。

地域の活かせる力を見つけ、それを活かせるシステム作りをする。

地域で支え合うシステム作りが進んでいく。

\*\*\* 5. 災害支援チームからのお知らせ \*\*\*

【1. 協力員募集】

\*\*\* 現 地

- 1). 現在、1日あたり上限2~3名で募集しております。原則として中3日以上、平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害支援チームまでお気軽にご相談ください。

**但し、初回参加の方は活動日数を3日以上でご参加お願い致します。**

今後、活動に参加される方で初回参加の方には、簡単な資料を郵送致します。

ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

\*\*\* 事務所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが、1~2ヶ月に1回でも構いませんので、

ご協力をお願い致します。

## 【2.書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』と

『東日本大震災 医療 ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』の

販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅡ』にまとめました。ぜひご覧になってください。  
尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

バトンⅠとバトンⅡとを同時にご購入される場合は合計冊数で送料を頂戴致します。送料表でご確認下さい。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ：URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=45](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45)

バトンⅡ：URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=47](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47)

## 【3.facebook】



facebookでも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

\*\*\* URL \*\*\*

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

## 【4.YouTube】

昨年の災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんがVTRにまとめて下さいました。現在はサポートセンターを活動拠点としております。当時の様子を知っていただく貴重な資料として、YouTubeにアップしておりますので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

\*\*\* URL \*\*\*

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>



## \*\*\* 6. 事務所より \*\*\*

\*\*\* 11/15 金子 小夜子 (災害支援チーム事務所)

石巻の11月は復興住宅事前登録説明会に明け暮れます。  
石巻市外の復興住宅事前登録説明会があります。そこに参加して下さったMSWの方々、  
これからに参加して下さるMSWの方々に感謝申し上げます。

### <編集後記>

本格的な冬の到来です。今年はなかなか秋らしくない気候が続いていただけに、突然冬になったという感じです。東北はもっと寒いだろうと自身がお伺いした時のことを思い出しながら編集していました。皆様くれぐれもご自愛くださいますようお願いいたします。

(編集担当 鴨島病院 医療ソーシャルワーカー一同 )  
東日本大震災 MSW 災害支援ニュース  
平成 25 年 11 月 15 日 第 3 卷 13 号  
作 成 徳島県医療ソーシャルワーカー協会